夏の幼稚園

豊田いと

私の園では、今年も例年のように夏の幼稚園を開設しました。それは何といっても地域的理由によることが大きいのです。なぜならば、ここには江戸川と荒川の二つの大きい流れを、小松川低地帯にゴバン目のように縦横するドブ川が、動きのない水を満たしており、一方、間借りやトタン張りの小住宅で内職に専念する母親が、子どもの遊び場のないことを承知しながらも仕事の邪魔になるということで、外遊びを強要するために、放り出される子どもがあり、母親も働きに出て家庭経済を補っているため、小学生の兄姉とボッネンと母の帰えりを待つ子どもがあったり……。

私の園では三分の一がこうした条件の中にあります。したがって夏休みとともに海や山に出かける子どもは、ごくわずかであります。そして、生活のために追いまわされるこうした子どもたちには、親から見はなされた全く放任された生活が続くのです。夏休みが終って九月登園した子どもは、また四月当初に逆戻りしてしまい、生活のくずれをなおすのに一苦労するのです。

特に不安に思われるのは、暑さのために水を求め、川やドブ川に落ちて事故を起しはしないかということです。小中学校児童が、毎年水の事故防止指導をよそに、何人かが悲しい犠牲者となることを思うと、じっとしてはいられない感じを私たちも親も持つわけです。また炎天下、無帽のままトンボ捕りやエビガニ釣りに夢中である子どもに、親の目が届かなかったために、九月になって登園もできず、病床に伏したり、あるいは、顔中に汗もや湿疹ができて、異様な顔で現われたりする子どもを何人か教えなければならないということは、毎年私どもの経験する夏休みのにがい思い出であります。

こうした地域の子どもの生活を考えたとき、放っておけないのです。夏休み近くなると私たちには、「この四十日間の休みをどうしょうか」ということが、一つの大きい問題として取上げられ、それについて子どもの生活、親の実状、教師の立場の三者が頭の中にくい込んで来るのです。今年も夏の幼稚園開設について、最も効果的にするにはどうしたらよいかと教師全員いろいろと頭をひねりました。そして相談の結果、新しいこころみとして、母親に参加させることに協議一決しました。母親の参加が教師の過労を少くするものであり、それにも増して母親と子どもとのつながり、幼稚園と親とのつながりなどどれを考えてもプラスになるように思えましたし、母親指導の最もよい機会であると考えられます。

一方夏季休学の主趣を充分に考慮し（高温と湿度の関係で教育活動が不可能であると）ながら、のんびりとした中で楽しい安心した生活をさせるように、自由なあそびと、水あそび、暑さの中に最も大切な午睡の習慣づけをさせるよう、場の設備を整え

たりしました。

またプール遊びをさせるについては、保健所の協力を得てあらかじめ内科検査、眼質検査を行った上、眼質や皮膚伝染の病原を持つ者には、特に医師の全治証明をまってプールに入れるというように、きびしい検査を行いました。

また毎月の水質の検査はもちろん、おやつの検討まで充分に心を配りながら開設したわけです。

註　幼稚園新設そういう地域の実態をみつめて、水あそび場兼砂あそび場として、縦六米、横三・六米、深さ〇・八米のものを備えたのが毎年大いに役立っています。今年も暑さのために水あそびが最も子どもたちの魅力でした。

開設までに

◎　父母の懇談会を開いてその声を聞く

夏休みの主趣について話し、休み中の生活指導についての話し合いを持ったのであります。さらに長期にわたる夏休みについて母親がどんな考えを持っているか、母親の声を聞いてみたのであります。（夏の幼稚園開設の参考資料として）夏休みの主趣については理解できたのですが、現実の問題としては、次のようなことを訴えました。

(イ)ほんとうに困ってしまうという者60％

(ロ)家で遊ばせますという者　20％

(ハ)休みになったら出かけますという者　20％

ほんとうに困る例としては、

「トタン張りの狭い家であるから蒸されるようです」

「遊び場がぜんぜんない」

「内職に忙しいので見てやれない」

「目をはなすと川に行くので危険で放っておけない」

「商事に忙しいので、たまの日曜日に海に行くのがせい一っぱいだ」

という者などで、田舎に子どもを預けるとか、海や山に行くという者には、羨望の目を向けコソコソ話しているのもこの地域の母親らしい姿でした。

このような赤裸裸な実状を聞いていると、昨年にも増して夏休みが困る家庭が多いことを痛感したわけであります。

ここで私たちは、夏の幼稚園の案を母親と一緒に考え合いながら次のような計画や母親の仕事の分担を持ったわけです。

◎　計画表と申込書を渡す。

左記により夏の幼稚園を開設いたします。御希望の方は〇日までに御申込みください。

一、期日　七月二十六日――八月十日まで（ただし日曜除く）

時間　午前九時より午後三時まで

二、費用　金弐百八拾円（十四日分おやつ代牛乳一合と菓子及雑費）

三、注意していただくこと

(イ)水着の御用意を願います（健康状態に御注意の上）

毎日持帰らせますから必ず水洗い願います。

(ロ)午睡をさせますから左の物を御用意を願います（期間中幼稚園に預かります）

・小布団あるいは毛布（下敷のもの）

・腹の上にかける大きい湯上タオルのようなもの

・机

(ハ)副食物は充分お気をつけください

(ニ)一日の大体の生活表を左に記します。

プールは午前組と午後組に分かれますが詳しいことは追って通知します。

1日のスケジュール

9時——10時
自由にあそぶ
例　シャボン玉をとばせる
　　ままごとをする
　　絵本をみる
　　粘土でつくってあそぶ

10時——11時
　　ラジオを聞く
　　紙芝居をみる
　　人形芝居をみる
　　お話をきく

11時——11時半
　　昼食の仕たくと昼食

12時——1時
　　水着に着替える
　　体操をする
　　プールで遊ぶ

1時——3時
　　午睡の仕たく
　　午　睡
　　おやつ
　　帰　宅

◎申込者数（予定日までに申込んだ者は次のように在籍の七割でした）

在籍数　二三一名（一年保育　一八一名）
　　（二年〃　五〇名）
申込数　一六一名（一年保育　一三一名）
　　（二年保育　三〇名）

一年保育……四組各組一人教師と母親三名宛
二年保育……一組二人の教師と母親三名

◎母親の当番日割と仕事の分担

申込幼児の母親に各組三名づつ毎日零時半より手伝い願うことにしたのです。欠席の場合は前もって知らせていただくように責任を持つことに納得して貰った。また、仕事としては、組の教師と相談することはもちろんであるが、余り子どもに手が届き過ぎてかえって、依頼心を起させることのないように、この点充分理解して貰ったのであります。

仕事の分担としては、プールや室内の清掃、午睡の場をつくること、眠れない子をねかせること、おやつの分担とあとの清掃などについて、お手伝を願ったのであります。

結果と反省

開設までにこうした準備をすることによってはこんだのであります。

いま特設夏の幼稚園を終ってホットした気持で静かに、顧みて苦るしい十四日間ではあったが、ほんとうによいことをしたと思っています。それは、次のような事柄です。

○水に親しむ

期間中酷暑続きで朝からプールに入れてくれとせがまれたり、洋服のまま飛びこんでしまう子もいたりして苦笑の場面もありましたが、連日の暑さで、家庭ではできないプール遊びがこの期間中、子どもの何より楽しいひと時であったようです。子どもの内から水をこわがらず親しむことを覚えるように、——というねらいが自然に発展して、十四日間の内に、水に顔を入れて浮くことができたり、さらに泳げるようになった何人かの子どももあったことです。

○自分のことは自分で

水着の着替えから午睡の仕たくを自分でするように仕向けました。下着の後ボタンを友だち同志でとりあったり、また、さめきれぬ目をこすりながら馴れない手つきで大風呂敷に寝具を包む、こんなことも夏の幼稚園でなければ見られないことでした。

○ねむれる子に

七月の母の懇談会の時、「夏休みの子どもの保健」と題して保健所長から具体的なお話をきいて、母親も午睡の必要性が理解できたであろうと思っていたのですが、まだ誤った考えで（ひるねをすると、夜おそくまで起きているからだめだ）大部分は午

睡をしていなかったのでした。こうした子どもは始めの一日、二日あたりは眠れぬまま起きだしたり、眠っている友だちをひっぱったりして教師を困らせたのでありましたが、三日目、四日目あたりから教師と母親の添寝やおとぎ話で全員眠れるようになったこと、これは、なんといっても、それが夏の幼稚園開設の大きなねらいだっただけにとてもうれしいことでした。暑さに負けず活動的に遊ぶ子どもたちに、身体的にも精神的にも必要な午睡の習慣づけができたということは意義深いものでありました。

○母親の姿

母親の参加ということが、いろいろの面で夏の幼稚園の大きな収穫だったと思います。つね日頃は、子どもを幼稚園に預けっぱなしの母親が、責任を感じて進んで出席する態度をとったことは、今迄に見られない母親の動きでもありました。この母親たちは父兄会にも出席せず、教師が家庭訪問をしなければ語り合うことができないのですが、この点から云っても大きな意義を持つものだったと思います。子どもの眠る姿に、うちわでやさしく風を送ったり、眠る子の額ににじむ汗をふいたり、頭をなでながら眠りに入る子の目の動きをみつめる姿には、やはりなんといっても子を持つ親の心づかいの細やかさがうかがわれ胸打たるる思いがしました。

○反　省　会

最後の日に教師と母親の反省会を持って見ました。「夏の幼稚園の感想や、将来の希望」について聞いてみたのです。

皆一同感謝の気持でいっぱいでしたが、また活潑な意見も出ました。

母親A「私は三日間通いましたが、とても楽しく過しました。特別うれしかったことは、今までは幼稚園や先生になんだか敷居が高かったのですが、そんな気持はなくなってかるがると来られるようになったことです」

母親B「私はまったくたまげましたよ（おどろいた）だって自分の一人の子でも眠らないとコッンとやったり、お尻をたたいたりしてしまうんですがね、先生方はあのたくさんの子どもを一人一人やさしく寝かしつけているんですもの、ほんとうにびっくりしましたよ。〃かあちゃんはこわい〃とよく云いますけど、ほんとうに私は怒りすぎますね、ずい分教えられました」

母親C「お手伝は午前中から来て、おべんとうを子どもさんと一緒に食べたらよかったと思いました。母親も一日幼稚園の子どもになるんですよ、皆さんいかがでしょう」

母親D「自分の都合で断りなく休むことは、他の人に迷惑をかけることになりますね。私たちもお互に責任ということを考えなければなりませんね、皆さん、きめられたことは必ず守るようにいたしましょう。集りの時、時間を守ることも、今後守るようにいたしましょう」

また、ある母親は心配顔で「私は昼寝をすると夜おそくまで起きていますから眠らないでいいと思っていましたが、今研究所の先生からうかがうと午睡はからだと心に影響するそうで、すっかり考えさせられました。私の子どもはなかなか眠れないで動いてばかりいます。つまり安心感がないのですね。この安心感をつけるためにも静かにしている時間が慾しいわけでしょうか？後の二十日間をなんとかして眠ることのできるように、努力してやりたいと思いました」と。

細かい点についてはいろいろ考えてみなければならないこともあるでしょうが、とにかく始めての母親参加の夏の幼稚園は成功といって良いのではなかろうかと母親た

ちの熱心な反省のことばがまだまだ続く様子をみながらホットすると同時に何か胸のつまるようなものを感じていました。

（筆者は松江幼稚園園長）

保育園の生活と夏休み

篠田加津子

保育園の生活と夏休みについて書くようにとの御注文でしたが、私の園の乳幼児の生活を通して保育所の在り方、乳幼児保育に対する私の考え方、保育園の生活と夏休みなどの題にもふれてみたいと思います。

働くおかあさんたちが、まず第一番に困るのは子どもをどこへ預けたらいいかということ、安心して預けられる良い保育所を希望する声は日一日と高まっているようです。

朝六時半に、ニコヨンのおかあさんが、生後四十九日目の赤ちゃんをおんぶしてきます。すぐその後から生後六ケ月の赤ちゃんが登園です。二人共御主人が結核で入院中なので赤ちゃんを預けてせっせと働きに出掛けます。すぐ其の後からは、御主人と夫婦別れをして赤ちゃんと五歳の子と二人をかかえたおかあさん、おかあさんが急に逃げ出してしまって六ケ月の乳児をかかえたおとうさん、とこんなふうに父親母親どちらかが病院とか貧困とかの理由で、乳児を預け、日雇いに出なければならない人が朝一番先にやってきます。

大体九時頃までには、その他の乳児、共稼ぎのため乳児室を利用する、たとえば、二人とも学校の先生の場合とか、二人とも会社勤めの場合とか、商人でいそがしくて乳児を見られない、子守を頼む余裕のない人とか、双生児などの場合、働きながら二人を見られないなど皆それぞれ保育に欠けるため乳児室を利用する方たちが多く四十幾人かの乳児が集ってきます。

主任の保母さんはニコヤカに明るく赤ちゃんの今日の健康の状態をきき取り、持物を預ります。

乳児期は、人の一生を左右する至難な離乳期がありますので、おかあさんの代りに大切な栄養の問題と取り組むのです。そして、一人一人がそれぞれ精神と肉体とのバランスがとれて発達しているか、身長はどうか、体重胸囲は標準に達しているか。一ケ月一度ずつ健康診断をし体重測定もしています。また言語訓練、歩行指導、食物をよくかむよう指導もします。一日も早くおむつが取れるようにはねてやったり教えるように訓練する。用便の後は日光にあてシッカロールをたいておくなど細い心づかいが必要です。

生後一年くらいはむしろそうした苦労はあっても静かにしていてくれるので、取扱いやすいのですが、二歳くらいの子どもたちはそれはそれは大へんなものです。この時期の子どもは自己中心的ですので、共同して遊ぶ楽しさを味うことができないだけに一人一人皆思い思いに遊んでいます。一人で遊んでいる時はいいのですが、すぐに同じ物でも人の持っているのが欲しくなって、取ってしまったり、やたらに物を投げ